

千代田まちづくり

サポート

通信

2007年5月発行

NO.16

編集・発行 (財) まちみらい千代田企画総務グループ

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
〒101-0054 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3223-7557

財団ホームページ <http://www.mm-chiyoda.or.jp>

E-mail info@mm-chiyoda.or.jp

平成18年度の活動成果発表会を開催 助成グループ同士の連携が加速し、まちづくり活動の幅が広がる



【審査委員—敬称略】

会長 饗庭 伸

(首都大学東京・都市環境学部建築都市
コース研究員)

副会長 鈴木 伸治

(横浜市立大学国際総合学部・準教授)

委員 山本 坦

(NPO 法人東京セントラルパーク理事)

金城 敦彦

(NPO 法人大丸有エリアマネジメント協
会事務局長)

田熊 清徳

(神田技芸祭実行委員長)

服部 素子

(社団法人日本フィランソロピー協会)

櫻井 和博

(千代田区政策経営部長)

▼トライアル部門が新設

平成18年度千代田まちづくりサポートの活動成果発表会が、平成19年3月11日(日)に千代田区職員研修室(九段会館内)において開催された。今年度はこれまでの助成部門に加え、新たに「トライアル部門」が新設されたことにより活動初動期のグループの参加も増した。今回は助成を受けた全17グループが一堂に会し、その1年間の活動を振り返りながら、成果報告を行った。

▼グループ間の交流が活発化

今年度の助成活動の特徴として、まちづくり活動の幅がより一層広がっていることが挙げられる。学生グループから高齢者グループ、在住・在勤にかかわらず参加しているグループなど、まちづくりに関わる担い手の多様化だけでなく、グループ間の交流が活発に行われた結果、公開審査会当時には想定していなかった新たなコラボレーションが生まれていた。本来、まちづくりはひとつのグループ、ひとりの担い手だけでは完結できない。さまざまな人々が出会い、そこから生まれるネットワークが大きなウェーブとなり、地域へ波及していくのである。このウェーブを巻き起こす起点となること、この千代田まちづくりサポートの目標である。

▼活動の広がりを目指して

饗庭会長から、「もっとまちに出て周りの人を巻き込んでほしい」とのコメントがあった。

千代田まちづくりサポートは、公開審査方式を採用しているため、会場に集まった人々の交流は自然と行われる。だが、これに関わらない人々も大勢いる。いかにこうした人々を活動に巻き込めるかが今後の重要な課題となる。

各グループの活動が、その場だけで完結してしまうのではなく、周辺の人やまちも含めて、地域の枠を超えるような広がりとなっていくよう期待したい。

みなさん、1年間お疲れさまでした！

目次（発表順）

1.助成グループの発表内容.....	1
【一般部門3回目】	
● 文化発掘隊.....	2
● 人が愉しめる道の研究会.....	3
【一般部門2回目】	
● 千代田文化会.....	3
● 魁！神田塾.....	4
● 都心の水辺探訪クラブ.....	4
● CAPPS.....	4
● 区有地活用を考える区民の会.....	5
● 武蔵野美術大学コミュニケーションデザイン.....	5
● カンダユメラボ.....	5
● でんでんむし.....	6
● フレンドシップちよだ.....	6
【一般部門1回目】	
● 内神田家守研究会.....	6
● 神保町応援隊.....	7
● i-Residence構想研究会.....	7
【トライアル部門】	
● NPO法人日本の風番町価値創造倶楽部.....	8
● サーキュレイト千代田.....	8
● まちづくりワン.....	8
2.講評・総評.....	9
3.サポート大賞の発表.....	11
4.事務局よりお知らせ.....	12
5.賛助会員のご紹介.....	12



一般部門3回目

1 千代田発 こどもまちの記者／発信・発展・再発見 文化発掘隊 【3回目】

3年目に入り、後期では残念ながら2回の活動しかできなかった。天候などの影響もあり、前期に比べ少なかったが、街のさまざまな暮らしを実感してもらうことを念頭に活動した。まず、第5回として「千代田区で鉄ができる？」では、科学技術館の鉄の総合展示室「鉄の丸公園」のオープンを記念して行われた「たたら製鉄」の実演を見学。実際に砂鉄と炭で鉄ができるまでを体験した。こどもまちの記者も担当者に取材したり、

たまたま訪れた安部首相と握手したりできた。

第6回「街の中でキャンプをしよう！」では、区内に火を使える場所がなく、中央区の築地川デイキャンプ場（公園）で、ダッチオーブンを使って鶏の丸焼きとピザ作りに挑戦。千代田区にもそういう施設がほ



しいと思った。

成果は、何よりも子どもの力、書く、見る、情報を発信するなど、子どもの成長には目を見張った。活動には約300人ちかい世代を超えた方々の協力や保護者の賛同を得られた。学生、大人、子ども、まちづくりにはすべて不可欠で大切だと改めて認識した。今後は、他の区からの要望もあり、新しい異世代協働プログラムを創っていきたい。

Q) 今後の別の切り口での企画や活動予定は？

A) 他区の子ども特派員制度に参加する。これまでに参加して

くれた他区への協力。さらにたとえば「食育」を中心にしたテーマの活動で具体的なプログラムを考えている。

Q) 千代田ならではの町会組織をいかして情報を発信し、次世代の子どもを育むコミュニティのあり方をさぐり、提案してほしい。

A) 企画だけでまだ準備不足。今後やっていきたい。

Q) 保護者会をしっかりとらせて、活動を継続してほしい。

A) それぞれの地域にどうつなげるかが課題だと思う。

2

都市計画道路放射27号線（番町中央通り）の道づくり 人が愉しめる道の研究会 【3回目】

3年間のまとめとしてパンフレットに経過を記した。審査委員の助言をもとに、グループの勉強会に終らせず、地域住民の意見をまとめる意味で、ワークショップを開き、話し合いをし、その結果、3つの提案をした。車優先の道の変革、屋外空間の充実、景観の美化と安全を図る。以上を具体化するためにパースと立体模型を制作。それを地域の人たちにプレゼンテーションして紹介したところ、わかりやすかったと好評だった。

今後は、パンフレットなどを使ってさらに私たちの考えを伝えていき、賛同を得たい。自治体からも、緑や散策、自転車の問題など意見が寄せられた。東京マラソン、オリンピックの誘致などもあり、東京の緑に関心が寄せられたのはうれしい。人が愉しめる道を造るという提案が実現すればと願っている。

Q) 住民らしいユニークな活動だった。この活動をどうつなげ、千代田区との連携や企業との協力、その可能性は考えているのか？

A) 単に圧力団体と見られかねないとの指摘があったので、利害関係なくやることを心がけた。行政や企業にも時間をか

けて話し合うことが必要。どうしてもお金がかからむと難しい。批判的な意見も真摯に受止めて、勉強も続けながら、機会を設けて地域や企業の方たちにもご理解いただくようにしていきたい。

Q) 区との考え方やスタンスに違いはあるのか？

A) 区のポリシーは共感している。むしろ住民の側の問題。利害の絡む場合に折り合いをつけるのが困難で、でも大切だ。

Q) 最初は心配だったが、3年間で大きな成果をあげてくれた。道造りはハードだけではなく、人々の交流のきっかけになるもので、花も木も道も続くので、それを支える活動も続けていってほしい。

Q) この模型の出番が多いように、置く場所、活かす場を探し、お蔵入りしないように切に希望する。

A) 多くの方の目につく所を考えて、区や企業と交渉していく。



一般部門2回目

3

千代田区を高齢者の住みやすい楽しい生活の街にしよう 千代田文化会 【2回目】

1回目からずっと同じテーマで、傾聴ボランティア、高齢者ネットワーク作り、生活共同体としての活動をしてきた。最初は手探りだったが、だんだんと要領を得て活動も広がってきた。中間発表の時に散歩などをというご提案があり、実行したら、たいへん好評だった。自分1人では出かけられないが、みなさんといっしょなら安心で、楽しいということだった。

11月に北の丸公園のもみじ谷で、小ピクニックをした。きれいな紅葉で、公園の方が滝も流してくれた。次に桜狩をしようと思い、来年度の4月に計画したが、暖冬で今月末になりそう。千鳥ヶ淵などは人が多いので、旧水戸家の庭園で、正面の見事な枝垂桜を見物しながらの小ピクニックを計画している。

来年度は、活動の範囲を少し広げて、高齢者と子どもたちのコラボレーションを考えている。詳細はこれからだが、一度子どもたちと遊んだところ、家にお年寄りがいないので、おはじきやお手玉などの昔の遊びを知らない子が多い。ぜひ、そうしたことをいっしょにやりたいと思う。

Q) 高齢者の方がサポートされるのではなく、するのだという

ことに驚き、千代田区はすごいと思った。来年度以降、他の団体との協働の予定はあるのか？

A) まだ具体的ではないが、御茶ノ水小学校などの先生方と相談して、子どもたちとの活動を実現したいと思っている。

Q) 提案した一人として、散歩を実行され、好評だったと聞いてうれしい。ぜひ、子どもとの活動なら、このサポートの他のグループともいっしょにやってほしい。

Q) ヨーロッパのお年寄りは、よく外に出てカフェなど、街の使い方を知っているそうだが、みなさんも戸外にも出て、喫茶店にでもどんどん出かけてほしい。

A) 昔からある歌声喫茶のような所にでも、行きたいと思う。ちなみに、コーラスのグループは平均年齢75歳、90歳以上の方も2人いる。老人の家庭内孤独の問題も多く、せめて話し相手にとお願いしたい。平和活動もライフワークとしていく。



4

親子一貫 神田っ子育成企画第2弾
魁！神田塾 【2回目】

今年1年間、盛りだくさんの活動をさせていただいた。中間発表以後のものとしては、12月のクリスマス会、ついでに、小川町の町探検、食事会と親子ケーキ作りなどを行った。学校の授業で、3年生が神田を取上げてマップを造ったが、よく知っている先生方に驚かれた。

1月には小川町親子雪だるまづくりに参加。優勝はできなかったが、みんなで一つの物を作ることや、親子で過ごす大切な時間を実感できた。残念にも作品は盗まれたりしたが、それも体験として学んだ。3月には農作業体験（農作物収穫）を行うので、バスを借りて出かける予定（スタッフの確保はまだ）。

今後の課題は、神田以外の地域への情報発信と交流。神田地区の道を極めて、子どもたちの夢の実現を図ること。具体的には江戸開府400年の時の桜踊りを子どもたちと再現すること。

Q) 親子でやる活動に意味があると思う。地域や家庭のルール作りのためにも、ぜひ「神田っ子宣言」を出してほしい。

Q) 僕の子供時代にも地元での思い出は少ない。これだけ地域に歴史や行事があるのはすごい。活動の広がりはずばらしい。さらなる発展を望む。

Q) 自然体験や農作業もやるそうだが、神田には青果市場もあったので関連が生まれると思う。活動を広める手立ては？

A) 会員だけでなく、より多くの人に呼びかけ、会員の友人にも口コミで広めていきたい。



5

神田川・日本橋川の魅力再発見
都心の水辺探訪クラブ 【2回目】

神田川・日本橋川を中心に、もっと川の魅力を知ってもらいたいと、活動してきた。今年はさらに川の観光、交通、防災の可能性を探りたいと考え、後半では、とりあえず川の様子を写真にとり、ポストカードを作った。水辺の調査をもとに8種類の写真から印刷した。また、標語がほしいと思い、「神田川・日本橋川@SLOW」とした。スローライフのSLOWとボートを漕ぐ意味のローのROWとを合わせた造語だが、気持ちを重ねたつもり。

3月の活動として、神田川・日本橋川流域周辺のお店にできたポストカードを置いてもらうよう頼みながら地域の人とコミュニケーションしていきたい。来年は、サポートの活動はお休みになると思う。その間にポストカードの言葉の意味が浸透してくれればと考えている。

Q) 河川については区と都が管理しているので、面倒だったかと思うが、何か区や役所への要望があるか？

A) 前にも言ったが、区の防災船着場を使わせてもらいたい。区役所の方も実際に船に乗って、安全性を認識してほしい。

Q) これらのポストカードは美しく素晴らしい。河川からしか見えない物があるのが分かる。ぜひ、3年目も休まずに続けてほしい。

Q) 鈴木先生の指導で石垣の刻印など、ぜひ紹介してほしい。

A) 来年、のんびりやっていきたい。それこそスローで。

Q) このサポート事業には留年と言って、助成金はもらえないが応募して報告することもできるので、ぜひやってほしい。

Q) マップ作りなどもあるが、意外とこのポストカードの方が見てもらえるのではないかと。来年に期待する。



6

千代田区公園アダプト制度を区民の立場からサポートし、
広めることを目的とする CAPPS 【2回目】

今年の活動は常盤橋公園の再生と清水谷公園のアダプト活動のサポート。「都市と公園」の公開講座、さくらサポーター通信と協働してきた。中間発表以降は、10月に常盤橋公園で「カンダユメラボ」とイベント。活動の原点に戻り、常盤橋公園、清水谷公園の清掃、12月には初めて企業の協力を得て昼休みにいった。NPO法人大丸有エリアマネジメント協会の後援を得た。常盤橋公園の再生プロジェクトは効果が始め、中央区からも日本橋地域ルネッサンス100年委員会が参加。企業の方も来だして、活気が出てきた。周辺住民が少ないので近隣の企業の方たちの協力が不可欠。清水谷公園のアダプト活動のサポートも同じ。佐藤工業から提供のチューリップの球根を麹町小学校や番町小学校に100個ずつ寄付。3月にも球根の植付けを行う。

さくらサポーター通信は「カンダユメラボ」と協力して完成。マップは千代田区の公式さくらマップにも採用されている。

今後の活動は、千代田区公園サポーター制度の組織化。団体

企業を含んだ広範なものの一歩としたい。環境、橋梁、緑に企業の協賛を仰ぎつつ、活動を継続していく。また、「都市と公園」の公開講座の継続を日本大学の伊東孝教授にお願いして、舟上からみた橋梁ガイドも、常盤橋からまな板橋まで行う。その調査をレポートとして出したい。

Q) 公園サポーター制度とは行政との関わりの中でやるのか？

A) 一応、相談しながらやっていく。発表も許可を得ている。

Q) 日常的に清掃活動をする団体もあるが、それはどうか？

A) 住民が少ないので、近くの企業などの協力がないと無理だ。

Q) 昼間の住民として、企業もいろいろやっているのだから、積極的に参加して、この会の力を発揮してください。

Q) 区も連合町会の声を聴くので、そこにも働きかけて、3年目もぜひ、活動してほしい。



7 千代田区の区有財産（主に廃校跡地）の活用を考える 区有地活用を考える区民の会 【2回目】

昨年は、リーフレットを作り、これをテキストにしてみなさんに考えていただいた。周辺住民対象に歴史や環境などについてのシンポジウムやワークショップを開いて、主に区の6箇所の廃校跡地の活用を検討、議論した。われわれがどうしたいかより、周辺のみなさんに考えていただき、住民のニーズを吸い上げることが活動の主旨だった。残念ながら、必ずしも十分な理解は得られなかった。千代田区の廃校跡地は他にはないほど非常に有効な価値を持つので、ぜひなんとかしていきたい。

今年度は、月並みだがホームページを立ち上げ、より広くアピールして、地域の方々に理解を深めていただこうと思う。つい最近、完成したので、ぜひクリックしていただきたい。

Q) 区有財産の廃校跡地の活用方法は何か見えてきたか？

A) アーティスト・イン・レジデンス（AIR）の提案をした。

ちよだアートスクエアとの連携を探り、活用の共通テーマを文化・芸術・歴史としていく。また、元気な高齢者の集合や活動の場を確保するのに、廃校跡地は最適ではないか。売ってしまえば、一時はお金が入るけれどすぐに消えてしまう。

Q) ホームページへのアクセスは、どのように広めるのか？活性化事業などにも伝えていくのか？

A) まだできたばかりなので、これからいろんな方法を考える。必ずしもアドレスを打たなくても、名称などでもアクセスできるので、気楽にクリックしていただけたらと思う。



8 神田におけるコミュニケーションデザイン 武蔵野美術大学コミュニケーションデザイン 【2回目】

授業の一環で、まちづくりサポートに関わることになり、神田神保町にスポットを当て『神保町キネマ』と『カンダブヒン』の2冊の本を創った。神保町の魅力を伝えるものとして、神保町応援隊の協力で「神保町ブックフェスティバル」に展示。

この本を仲立ちにして、街の人たちと交流を深め、本を広めるようにとのアドバイスを受け、何度も神保町に足を運んだ。喫茶店を中心に本を置いてもらうために、一軒一軒訪ねて、幸い置いていただけた。すずらん通りの（株）地方・小出版流通センター「書肆アクセス」の店頭にも販売場所を借りた上に、本を置ける3店の喫茶店を紹介してもらい、手にとってもらえるようになった。春には大学での展示も企画している。

町の人や他の団体から協力していただきながら、本の魅力を学ぶことができた。そしてコミュニケーションとデザインを結びつけ、本の制作もできた。ありがとうございました。

Q) クレヨン作りから本作りとなり、3年目はどうなるのか？

A) 授業の一環だったので、毎年新しいメンバーでそれぞれに考える。メンバーは未定だが4月には、引継ぎの意味でも、

次の3年生に伝えるためにも、学内で展示会をする予定。

Q) この本をさらに進化させて、職人の手についてと

か特集し、おもしろいものにして、ぜひ3年目も続けてほしい。

A) いまも本には書き込めるようになっており、要望や感想を寄せていただける。徐々に、意見も寄せられると思うので、進化しつつ、こつこつと活動していきたい。

Q) 要望の欄に、発表の方法としてパワーポイントとか映像機器の使用を訴えていたが、そういう希望は強いのか？

A) 紙面での発表は、後ろの方は小さい文字などが読みにくいこともあるし、大画面で表現して発表したいと思う。

Q) 最初は何をするのか不明だったが、アウトプットの着眼点のクオリティが高いのでよかった。ここで終わらずに、これからの展開や可能性があるので、活動を続けてほしい。



9 カンダのユメがコラボする カンダユメラボ 【2回目】

2年目の活動として、夏には創作屋台、秋にはパークラボというイベントをやった。他に千代田運動会や雪だるまフェスタ、親子で家づくりなどに参加。1年目は神田に挑戦、2年目は受け入れてもらうために神田で親睦を深める年にした。そこでさまざまな団体とともに、夏は町会、自治体の方やサポートの助成団体「でんでんむし」さん、CAPPSさんと活動した。

今年は、さくら祭の期間に合わせて武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチームと、3月に夢祭07を開催。場所は廃校になっている今川中学校。「ぼってんスクール」は今年で3回目、職人さんの話を聞き、できればその技を授業形式で体験する。「さくさくらボ」は、去年は神田の学生の設計展だったが、今年は夢の畑をデザインしようと校庭で子どもたちと畑を描き、それ

を展示する。「コココロ菜ココロ」は、親子でサイコロをしながら食育、スローフードについて学ぶイベントにする。

Q) 悩みとしてメンバーの減少とあるが、来年度の抱負は？

A) 今年は協働チームと企画段階からともにモチベーションを共有して行いたい。そして、メンバーを増やしていく。

Q) 地元を受け入れられたきっかけは何かあったか？

A) お酒。町会の人にも顔を覚えられ、親しくなった。

Q) 「畑」なら、大手町の野村ビルにあるパソナという会社の地下に農場があるので、展示のお役にたてるかもしれない。



- Q) 夢祭07と千代田のさくら祭、内神田さくら祭とも重なる。来年も、引継ぎをよくやって、神田のコムラボになってほしい。
- Q) まだ区内の他の大学にも広げていってほしい。このグルー

- プは引継ぎも上手なので、ぜひつなげていってください。
- Q) 神田もまさに「神の水田」だし、千代田区は都会化されて、土の匂いがしないが、だからこそ、自然の香りが漂っている企画だと思う。持続できるよう応援したい。

10 神田に渡そう『でんでん橋』 ～電大と神田をつなぐ橋～ でんでんむし 【2回目】

メインの活動は椅子造りのワークショップで、電機大学の屋上で地域の子もたちとベンチを造った。それを4月の段階では路上に設置することは難しくて地域の方と相談したところ、区の福祉総務課と日立自動車の協力で、千代田区福祉タクシー「風ぐるま」の停留所に置くことになった。

地域のイベントでは、出世不動通りの子も縁日と、旧今川中学校で行われた神田縁起市に創作屋台を神田甘味処の方と協働で出した。交流が広がり、千代田区体育大会や旧今川中学校で、鍛冶町主催のもちつき大会にも参加した。

これからは、去年創った地域情報誌は錦町のみのもだったが、今回は神田公園地区を対象に、20地区、19町会の1町会1冊で、一月おきくらいのペースで発行していく。

反省点として、まずメンバーが少ないこと。多くは4年生なので、1月後半から卒業などで忙しくなり、その時期の活動がおろそかになる。これからは、メンバーを増やし、2,1年生を多くす

れば、この時期を補えると考えている。来年に向けて電大の学生にアピールしていくつもりだ。

- Q) 地域情報誌を出したいというところだったが、神田公園地区ではすでに『大好き神田』という情報誌がある。学生にしかできない企画を考えてほしい。町会に縛られなくていいと思う。
- Q) 子どもたちと造ったベンチを「風ぐるま」の停留所に置けたのはすごい進歩。メンテナンスも必要なので、来年度やってほしい。地域情報誌の発行も、もっと自分たちの目線で、学生から見た街のよさを発信できるとおもしろい。ぜひ工夫を。
- Q) 他から頼まれてやることは楽しいが、自分たちのやりたいことをメンバーで再確認して共有し、活動してほしい。
- Q) NTT神田営業所のベンチのメンテナンスもお願いしたい。



11 地域に根ざした国際交流 フレンドシップちよだ 【2回目】

日本と外国の文化交流を図るための活動内容は、一つは親子で参加する外国人への日本文化の紹介。もう一つは、区内の日本人の小学生を対象にした外国文化の紹介。

前者は、まず、防災体験を本所防災館で体験。次に飛鳥建設の協力で中央環状新宿線の工事中のトンネル内を見学。相撲、巻き寿司・押し寿司、風呂敷、琴、皇居外苑散歩などを中間発表までに行った。以後、着物着付け、染物体験、餅つき大会などに参加。

後者の活動として、番町小学校のサタデースクールで外国人ゲストが自国の文化を話す。年に12回、12カ国（インドネシア、アメリカ、ブラジル、スペイン、ドイツ、ペルー、香港、ベトナム、メキシコ、コロンビア、ハワイ、韓国）の文化紹介授業が開かれた。参加した外国人ゲストがスタッフとして活動を申し出てくれるだけでなく、ホームページから申し込む外国人が現れたり、活動の広がりを感じた。

- Q) 他の団体との連携や交流がないのはどうしてなのか？
- A) 支援の対象をあまり日の当たらない外国人で、仕事の面でもマイナーな人たちにしている。それでどうしても困難があるが、今後はなんとかネットワークづくりをしていく。
- Q) トライアル部門の団体が外国人支援としてお店のメニュー翻訳ボランティアをしている。連携してはどうか？
- Q) 楽しいイベントのようで、ハンディを背負う外国人のためにも、意義のある活動だが、彼らが困った時の相談などは？
- A) 最初のイベントが外国人の饗應者のためにもと行った防災体験で、突発的なことへの準備として開いた。しだいに横のつながりができて、困難な状況の時に、日本人として信頼され、相談なども受けるようになった。



一般部門1回目

12 地域不動産関係者の連携によるエリアマネジメントの促進 内神田家守研究会 【1回目】

内神田の不動産と、この地域に来てほしい企業や人材を結びつけていく仕組みづくりを進めている。インターネットで地域ポータルサイトの研究をして、エリア内の空き室、空き店舗などの不動産情報を紹介。ブログサイト「神田出世不動産」のテスト版を開発した。タウンマネジメントの活動としては、千葉県柏市の開発を学ぶため、柏駅周辺イメージアップ推進協議会

の視察。お話を伺い、神田ではどうしたらよいかを検討した。

問題は、地域の不動産業者の受けが悪く、われわれの主旨がよく理解されなかったこと。業者から競合するのではと誤



解された。私以外のメンバーが神田の不動産のオーナーだったので、不動産を持っていない私が会長になった。根が深くても不動産の仲介業者と思われたりして、仕組みを変えなければと思う。一つは情報発信の仕組みに整理する。不動産のオーナーとテナントを結びつける際に仲介料ではなく、情報の提供に対する一律の契約料にするとか、不動産業者との関係をどうするかが課題である。

- Q) 地元の人と話し合い理解してもらうために、どう工夫したのか？まずウェブサイトを構築したというが、次の手は？
A) やはり、現実には1つでも事例を作るのが大事。モデルとして、お金がきちんとまわるような事例を作らないとご賛同

いただけない。もしできればいいテナントも集まり、町の活性化にもなる。今、実際に相談を受けているのはアーティストの集団だが別に安い賃料でということではない。これを機に、今後の可能性が出てくると思う。

- Q) 理想と地域事業の現実とに温度差が出てくる。高松の丸亀の再開発の好例もあるが、どうオーナーと話をまとめるか、システム化は実践的で波及効果が高いので期待している。
Q) ふつうの不動産屋から借りて半年くらい経った借り手の思いなど、情報がないので調べてはどうか。そこで得た情報は、不動産屋にも参考になるはず。3年間は、サポートできるので、いろんなことに挑戦して活動を継続してほしい。

13 神保町を元気ある街に、よそ者と若者と住民と知恵と力を合わせましょう。 神保町応援隊 【1回目】

若い人が中心なので助かる。ホームページも立ち上げ、旗も企業の協力で創った。年2回発行の『おさんぼ神保町』も3号に。商店街の靖国通りの方からの要望で「東京マラソン」の時、応援してくれる人にカイロをメンバー9人で1000個を配る。ランナーから旗を見て勇気つけられたとお礼のメールをいただき、早速、会員に。また3月に、御茶ノ水小学校で「Jエリアフェス」という町内会のお祭りが開催。子どもと遊ぶコーナーとウォークラリー、大声大会を担当。今後は町会、商店街組合、祭実行委員会など、それぞれ一生懸命やっているが、いっしょに活動できればと思いつなぎ役になる。

- Q) つなぎ役は重要だが、その方法は具体的には何か？
A) 住民と友達になり、商店街でいっしょに会議を開きたい。
Q) ぜひ続けて千代田の将来にむけて活動をつないでほしい。
Q) 会費を29万円余確保しているのは1年目で立派。
A) 現在150名、16社が会員に登録。目標は、500人、50社。『おさんぼ神保町』の発行で広告料はもらわないうもりだったが多くの協力のおかげで金が集まった。表紙の広

告を取りたい人たちが多く、1万部を超え2万部に。出版関係者の「神保町を元気にする会」と組みたい。年4回発行になるかも。

- Q) 会費がワンコインの500円玉というのも成功。他のグループもぜひ参考に。応援隊は旗を立てているが、応援を受けている側のメッセージを何かで表現してはどうか？
A) 応援隊お薦めの店のステッカーを作ろうと考えている。祭りのイベントでのゴスペルも仲間。とにかく外の業者に頼まず自分たちで何でもやることをモットウにしている。
Q) どうしてもスポンサーがいて冊子を創ると、束縛される。自分たちの目で見たとを紹介する姿勢を貫いてほしい。
A) 幸い、スポンサーがいても制約はない。外部の人間がお客の目線で発見することをポリシーにしている。



14 地域共生型の国際学生居住をめざして i-Residence構想研究会 【1回目】

2月に、ちよだプラットホームスクウェアでまとめのシンポジウムを開き、50名ほど参加。国際学生寮i-Residenceに学生が入り、町会や地域の企業と関わり合い、祭やボランティア活動、企業のインターンシップなどに参加することで、家賃を低減する仕組みを作る。区有地の廃校跡地に学生寮を造るのも可能性の1つ。来年は具体的な計画の検討を進め、モデルプランをまとめたい。

- Q) 国際学生寮は知っているが、成功事例はあるのか？
A) まだないので成功すれば千代田区が初の成功例になる。学生と地域と企業を結びマネージャーが必要で、エリアマネジメントのできる人を探している状態だ。
Q) 区の人口増はあるが、地域にとけこめるかが問題。この仕組みは廃校跡地だけでなく、古い空きビルなども活用できそう。地域や企業のボーダーを外していく可能性がある。学生の住居者は地域のマナーや日本文化を学び、地域コミュニティが減ばないですむのでは。ぜひお願いしたい。
Q) 学生が区内に住んで、ホームタウンと思える町になると、

いずれ千代田に帰ってくるという「人間鮭論」の発想はおもしろい。今は理論、構想創りだが、実際に地元での交流や、受け皿を創る実践をしていただきたい。その成果を行政だけでなく、学生受け入れの素地創りにしてほしい。

- Q) 「人間鮭論」だが、神田は鮭の生まれた所ではなく、成長して泳いで行った海の方ではないか。また、肝心の学生のニーズが読めない。留学生は状況も立場も国によって異なる。日本に何を求めているかもさまざま。来年度はそこに注意して取り組んでほしい。
Q) 学生が住んだ建物の管理や税金、住民票の問題、後のことまで面倒見なのか？それはどう考えているか？
A) 淡路町の再開発で学生寮が数十室予定されているので、これから考えていきたい。まず、ご支援をよろしく。



15 ギャラリー展示 地図で見る番町 特定非営利活動法人日本の風 番町価値創造倶楽部【トライアル部門1回目】

番町は江戸時代から、皇居（江戸城）を中心に家康の親衛部隊が住んでいた。銀座を埋め立てたり、調べれば調べるほどおもしろい地域だ。明治、大正時代は永田町が近いので、政府高官が住み、現在では、国の中心になる財団法人や社団法人が多い。出版社も多く、水面下で日本の流れを創ってきた。

国会図書館から各時代の関連地図を借りて企画調査をした。10月にギャラリー展示会「地図で見る番町」を開き、その時集まった人たちが、番町は江戸時代の町とほとんど変わってないのではと、江戸の古地図を持ってまち歩きをした。

Q) 来年度もやるとすれば、その抱負はあるか？

A) この地域には学校や大使館、美術館も多く、ホテルもでき

て、全国や海外から集まる人がいる。ギャラリーが半蔵門にあるので、観光案内所のように路を訪ねられる。いっそ、地図に描き込みたいと、必要性を実感している。

Q) 町会の活動だが麹町地区活性委員会がある。ニーズに応じて将来、そこのリンクは考えているか？

A) 滝廉太郎の祭などには参加している。NPOの仕事をしながらから日本文化の教室をして、地域の方とはつながっている。



16 メニュー翻訳による地域活性化 サーキュレイト千代田【トライアル部門1回目】

9月から毎月1店舗の割合でお店のメニューを翻訳。『フロムA』から無料掲載のオファーがあったり、サポートの他の団体からも声をかけてもらった。何とか頑張りたい。(松本)

自分が海外で生活して困ったのは、お店のメニューが読めないこと。英語も通じない。やむなく写真にあるファーストフードを食べて生活。メニューに日本語があればと思ったのでこの活動に。日本の外国人も同様の体験をしているのでは。千代田区に多い外国人たちにはいい環境になれば町もよくなる。

知らない料理名の発見、今度海外で役に立つと思う楽しさ。英語の力があっても活躍の場がない人も多いはず。ただ店により翻訳メニューをサービスの一環と考えると限らず、この活動を理解されるにはもう少し時間がかかるか。(小沢)

Q) 経済的、資金的に苦しいと思うが、今後も続けるか？

A) まず知っていただくためにメニューもお金をかけた。渋谷区からも依頼があり、商店街に働きかける見本版にした。

Q) メニューの翻訳は、エッグ・プランツが茄子だとか、チキン・ボールが「つくね」だとか、決まっているのか？

A) トウフのように日本語がそのまま海外で通じる物もある。お店が伝えたい料理や食べ物があるので、事前に作り手の意図や意見を聞き内容が分かるように翻訳する。

Q) トライアル部門としてはいい活動だった。スタートラインに立ったわけで、写真や食べた人の感想を載せるとか工夫して、ぜひ、今後も続けてはどうか。

Q) 試食をして翻訳してもらうのもおもしろい。翻訳メニューのある店の表示やお薦めのレストラン紹介などもしては。

A) 今後、インターネットなどでやっていく。



17 犬は町のコミュニティ作りに大きな力になる。その犬の力を使って、 地域住民の新しい交流の場を作る まちづくりワン【トライアル部門1回目】

1年間、毎月、アイガーデン周回の掃除を行い、区の安心・安全パトロールの腕章や帽子を着用して、防犯にも協力した。飯田橋の富士見町再開発のショールームの一角に、期間限定のドッグランができるので、さらに交流が深まると思う。

富士見出張所からの助成で防犯パトロールのワッペンとバッグを作り会員でない方にも配ってアピール。清掃用具は飯田橋町会から借りて予定の購入費用が不要になり、余った分を返却する。最大の課題は会員を増やすこと。マンションの住人へのPR不足か、参加が少なかった。地域の住民との交流をさらに図り、ドッグランでマナー教室や子どもたちとのふれあいなど考えていく。

Q) ユニークな発想の活動で期待している。ドッグランができるのはチャンス。会員の数やネットワークを広げて、他にもできることを夢に描いて、活動を広げてほしい。

A) 実は犬や猫を飼ったら最期まで面倒をみて捨て犬や捨て猫を絶対しないように、と運動していきたい。

Q) ペットセラピーという高齢者と犬のふれあいもある。千代

田文化会の高齢者との散歩などと協働してはどうか？

A) お年寄りの方と、犬を連れての散歩では、歩く速

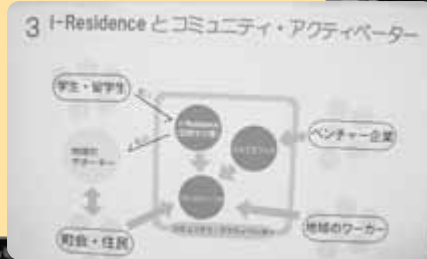
度が違うので、難しい。また衛生面にも注意がいるかと思う。その話は出たが、実現にはいたらなかった。

Q) そういう基本的な注意はした上で、また犬の種類も考え、犬をなでるところからやってみるとか、相談の余地はあると思う。

Q) パトロールの頻度はどのくらいか？安全、安心に関する活動に反対はない。マンション住民にも広がるのではないか。

A) まだ、朝晩の散歩の時に個別にやっている程度なので、今後の参考に。マンション住人に広がらないのは、ライフスタイルの違いが大きい。マンション交流会の会長さんにもお願いしている。来年度はもう少し働きかけてみる。





審査員 講評

山本委員



最初の時に「まちづくりは、まちduクリエイト」だと申しあげた。千代田区の歴史文化、まちの絆を素に、行政ではできない活動で、円滑油になり、助成金を自分のためではなく、まちのために使って下さいと。きょうは、広範囲にいろんな切り口で有効に、テンポは異なっても活動していただいたと納得。今度は区外に向けても、公開審査で企業からの浄財を使った助成金で活動していることを発信したいと思う。まちづくりは、未来に永く続くが、高齢者から学生までともに味のある活動をしていただきたい。

田熊委員



審査員1年目でフィーリングだけで助言や審査をしたが、みなさんの力になれたか心配。来年もあるので、よろしく。私は20年間神田の町会青年部において、卒業して地元の中間管理職。観光サポーターとして「内神田桜祭」を提案。秋には神田技芸祭実行委員長をして秋祭り。地元の企業や学生スタッフで、商店街や町会のボーダーを外してやり、サポートのグループも参加。神田というフィールドでイベントや実験をしてくれるように、私は地元として調整をした。千代田に心地よい風をみなさんで起こしてほしい。

金城委員



1年間でグループ同士の相互乗り入れが多く生まれた。交流のきっかけにサポート活動になっていることが意義深い。大手町の常盤橋公園でCAPPSさんが清掃活動されているのでいっしょにやれた。よく知る団体にはつい辛口になった気がする。

実は先日自分が肉離れを起こし、両足松葉杖で歩いたが、バリアフリーの大切さを痛感した。不自由になって初めて思うことがあった。まちづくりもいろんな目で見、自分の視点で掘り起こしていけることに意味がある。今後も創意工夫のアイデアを出して、受ける側の「まちみらい千代田」や区を困らせるくらい提案を出してほしい。

服部委員



市民活動にも、実は意外にも縦割りの社会ができています。子育てなら子育てだけ、助成プロジェクトでも、青少年分野の助成と決まっていることが多い。このサポートでは「まち」という視点でいろんな分野の方がいる。それぞれの主張をしつつ、遠慮もしつつ、問題を乗り越えてまちづくりをしていく姿が見えて、一人一人の住民のサポートだと実感した。最初は個人的な活動にも助成をするのかと思ったが、最終的な成果発表を聞くと、そうだったのかと納得。暮らしをサポートするのは理屈ではなく、みんなが元気で豊かになれば、結果オーライなのだと思った。

櫻井委員



きょうは期待以上の発表だった。どのグループもきちんと成果を出していた。改めて、まちづくりに行政ができるのはほんの一部だと思った。在住、在勤、そして学ぶ人たち、そういう区民が、知恵とパワーを出してまちづくりをしていくことを痛感したし、千代田の底力、潜在能力をひしひしと感じた。こうした活動が積み重なって、千代田区はますますおもしろく、よくなると思った。ぜひ、これからも地道に続けていっていただきたい。ほんとうにきょうは、刺激的で楽しい一日だった。ありがとうございました。

鈴木副会長



千代田のサポート活動はレベルが高いので、さらに高い要求をだし、辛口だと言われてしまう。それできょうは少しコメントを甘めにした。審査の視点は2つある。1つは、サポートのシステムを通して活動がレベルアップしていく。同じところで3年間活動するよりは、活動を通して人と出会ったり、活動のレベルが上がっていくことを期待している。

もう一つは、どこか千代田らしさを大切にしてほしい。他でもできる活動だが、スパイスのように千代田らしさが入っていることだ。きょう発表された活動は、卒業する2団体も含めて、紆余曲折があったと思うが、最終的にはその2つを具体化していた。来年も頑張ってください。

総評

饗庭会長

今年、気になったのはお金の使い方がざっくりだったかなということ。会計報告は公開されるので、我々は区民のみなさんが相互信頼のなかで、きちんとお金を使うと考えてサポートをやっている。もし残ったら返却してください。それがいちばん筋が通っていると思う。

2つ目は、われわれの側の課題でもあるが、今年初めて、「トライアル部門」を新設したが、ふつうのサポート1年目とどう違うのか。来年は鈴木先生を会長に審査会が真摯に機能してくれるので、この問題を来年に投げたい。もうひとつ来年の審査会にお願いする問題は、学生の団体のこと。僕の記憶だと3年間サポート活動を続けた学生団体はいない。学生は卒業してしまうから、1、2年やるとフェイド・アウトする。でも今年の学生団体は来年も、再来年もやりそうだ。すると、3年間彼らが活動を続けた後には、何があるのか。彼らに、地域の中で自立しろと言っても、学生だから無理だ。その辺のことをどうするか審査会で考えてほしい。

それから「まちづくりサポート」というが、まちづくりの「まち」とは、みなさんのフィールドはどこなのだろうか？おもしろい活動をしているが、ほとんどがソフトの活動だ。活動発表会を聞いてみると、おもしろいのだが、道を行く一般の人たちに、まちがどう変わっていったのかをいかにアピールできるか。これは全員に突きつけられた課題ではないかと思う。たとえば、公共施設を転々として活動している人はたくさんいる。しかし、それはまちに出たことにはならないのではないか。もちろん、家に閉じこもっているよりは、いいのだが、公共施設の外側、路上とか、店とか、街中でいかに周りを巻き込んで、活動していけるか。ぜひ、来年度のみなさんに目指していただきたい。

千代田区には公共施設もたくさんあり、サポートの団体は恵

まれている。区民の使えるスペースがあり、まちが狭くて、インターネットのネットワークなどもあり、すぐ友だちがみつかったりする。千代田区にはきちんとした町会も残っていて、町会にも恵まれている。だから、区の中だけで助け合う

のではなく、日本を助けるような感じの活動も出てきてもいいのではないかと思う。千代田区から発信していくとか、区が核になって周りはどうなのかを考える。そういう活動をしてくれる団体が出てくるといいなと思っている。



▲饗庭会長、長い間お世話になりました。

サポート大賞の発表

毎年恒例により、審査委員と来場者によるサポート大賞の選定を行った。活動成果を発表し合った仲間同士で、最も顕著な成果をあげることができたグループに投票を行った結果、以下のとおりとなった。

- 1位 神保町応援隊
- 2位 武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム
- 3位 人が愉しむ道づくり研究会
- 4位 カンダユメラボ
- 5位 CAPPS

今回最も多い支持を集めたのは、今回初めての助成を受けた「神保町応援隊」となった。神保町が大好きな人々が集まり、もっと魅力ある元気な街を目指して、活発な活動を展開したことが、評価につながった。初年度から高評価を得たわけで、次年度は一層の飛躍に期待したい。

「武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム」は昨



▲神保町応援隊

年に引き続き、次点となった。神保町の魅力を自らの視点でとらえ制作した本が評価された。神保町応援隊と協力関係が結べたことも活動の飛躍につながったようである。今後の活動もますます注目される。

事務局よりお知らせ

○交流会を開催

活動成果発表会の終了後、千代田サポーターズクラブ主催の交流会が開催されました。助成グループや審査委員など30名以上の方に参加いただき、活動の内容や今後の取り組み、裏話などを楽しく歓談しました。



この交流会を通じて、活動の連携が一層深まり、千代田のまちづくり活動の広がりを感じ取ることができました。

○みなさんの活動のPRを支援します

まちみらい千代田では、インターネット媒体や紙媒体による広報活動を行っています。みなさんのまちづくり活動を広くPRするために、こうした媒体を活用していただけるよう準備をしています。「イベントを告知したい」「活動への参加者

を募集したい」などのご要望がありましたら、事務局までお知らせください。

○千代田サポーターズクラブへ参加しませんか？

千代田まちづくりサポートのOBが中心となって活動している千代田サポーターズクラブ（CSC）では、活動に参加していただける仲間を募集しています。千代田のまちづくり活動を行うグループを支援したい、活動は終わったけど、何らかの形で関わっていききたいなどのご興味のある方はぜひご参加ください。



<CSC連絡先>

メールアドレス：hs_mhr@ybb.ne.jp

電話：090-2410-2911 担当：三原

(財)まちみらい千代田 賛助会員一覧 (法人：78社 個人：69名 計147)

2007年2月末日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています。<賛助会員募集中>

【法人会員】

【保険関係】

日本興亜損害保険(株)

【金融関係】

大和証券(株)本店営業部
興産信用金庫
城北信用金庫 神田支店
(株)東京都民銀行神田支店
(株)東日本銀行 飯田橋支店
みずほ信託銀行(株)
(株)三菱東京UFJ銀行
(株)りそな銀行

【建築・土木関係】

(株)大林組 東京本社
大林道路(株) 関東支店
(株)ガイアートTK
鹿島建設(株) 東京建築支店
鹿島道路(株)
(株)熊谷組 首都圏支店
五洋建設(株)
清水建設(株)
(株)銭高組 東京支社
大未建設(株)
大成建設(株)
(株)竹中工務店
中央建設(株)
鉄建建設(株)
東京舗装工業(株)
常盤工業(株)

戸田建設(株) 東京支店
飛鳥建設(株)関東土木支店
(株)ナカノフドー建設
(株)間組 東京支店
前田建設工業(株)
真柄建設(株)東京本店
(株)増岡組 東京支店
(株)みらい建設グループ

【不動産関係】

エヌティティ都市開発(株)
協永(株)
(株)共立エステート
(株)久保工
住友不動産(株)
大日本企業(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
安田不動産(株)

【建設設計】

(株)アール・アイ・イー
(株)アイテック計画
(株)ADプロジェクト
(株)エルイー創造研究所
(株)関東設計
(株)楠山設計
(株)都市環境計画研究所
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)日立建設設計
(株)ポリテック・エイディディ
マト設計・コンサル(株)

(株)ラウム計画設計研究所

【ビル管理】

鹿島建物総合管理(株)
本州ビル・メンテナンス(株)
(有)フィレール

【電機・通信関係】

ウェブリオ(株)
三洋電機(株)

【緑花・環境関係】

日産緑化(株)

【コンサルタント】

(株)アーバントラフィック
エンジニアリング
(株)アフタヌーンソサエティ
ジュネスプランニング(株)
(株)新都市企画
NPO都市住宅とまちづくり研究所
(株)都市デザインシステム
ランドブレイン(株)
NPOマンション管理支援協議会

【その他】

秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
(株)イサミヤ

神田古書店連盟
(社)東京都建築士事務所協会
千代田支部
東洋美術印刷(株)
フィールファイン(株)
プラットフォームサービス(株)
ヨシモトポール(株)

【個人会員】(敬称略)

青木 孝次
大熊 伸
安孫子 政夫
角地 登志子
安藤 岩三郎
加藤 武夫
伊澤 優
北見 拓
泉澤 定雄
小林 勝彦
伊藤 敏雄
小山 政士
犬伏 真
今野 隆雄
今井 守
佐々木 明美
浦田 泉
木村 進一
扇谷 和栄
他50名